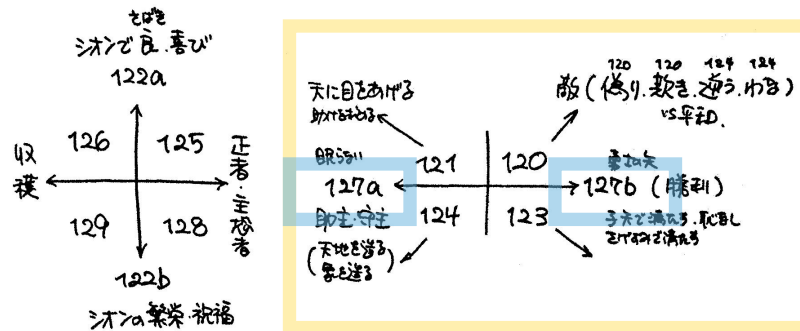




詩篇第五卷 都上りの詩
詩篇120-129篇

2012.12.14



125. 天が良きとされるのが。 - 主に信頼(慕い) 良い道に歩む。
 128. 天が祝福されるのが。 - 主に恐れ。
 + 実を結び、繁栄。いのち。
 シャロームがあるように。

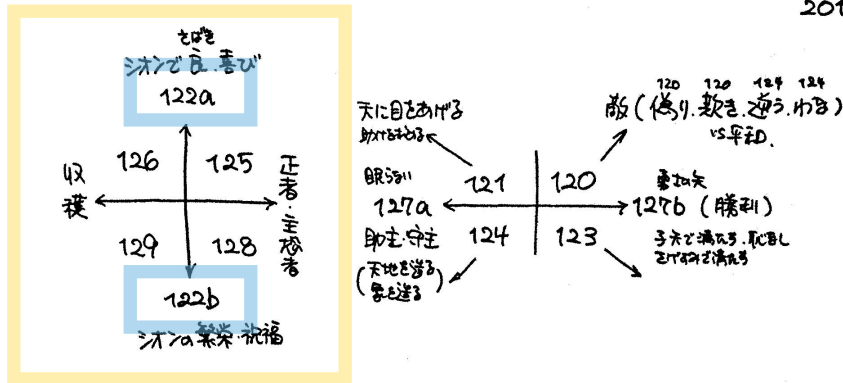
都上りの詩篇120から134篇のうちの最初の10篇。5つずつ、120から124と125から129。これが、120と127をおへそにして取り替えるみたいな感じで並行しています。

120と121、123と124の並行関係を見ると、間にある122じゃなくて127なのですね。127の前後が入れ替わった状態でこの120,121,123,124が並んでいると思われます。

例えば、勇士の矢、満たされること、眠らないこと、街を作ること、天地を創られた主から助けが来ることなどです。121と123も並行しています。天から救いが来る、その天に目を上げるといこと。120と124、ここには、偽り者、欺く者、逆らう者、畏を仕掛ける者ということで、シャロームに敵対する者たちの攻撃、これが120と124にあります。

120,121,123,124の4つですので、abab,aabbという形で3パターンあるのですが、aabbの部分には特に強調されていないかなと…。ababというのが127篇の前後で構成されている。abbaのところは助けてくださる主と、それに対する敵ということで構成されているように思われます。

2012.12.14



125. 誰かが良者とされるのが。 - 主に信頼(恵みを得る)。良い道に歩む。
 128. 誰かが祝福されるのが。 - 主を恐れる。
 + 実を結ぶ。繁栄。いのち。
 シアロウがあるように。

125から129、こちらも127を中心にするのではなくて、122を中心にして構成されています。125から129までの4つの部分も今の120からと同様に、並行関係を見ることができます。

こちらの並び方は122の前半、シオンで良しとされること、さばきが行われること、喜びが起こることというのが、125と126。エルサレムの繁栄、主の祝福が与えられることについて、その122の後半については、128と129ということになっています。この流れでいうとaabbですね。aaが122の前半、bbのところが122の後半ということです。

もう一つの並行は、ababという形ですね。125と128、終わり方が同じです。イスラエルの上に平和があるように。正しい者の話と主を恐れる者の話。これが125と128です。

126と129は収穫の話です。実を結ぶ話と枯れる話というような形で126と129というものがあることと喜んでいることというような並行が126と129にありますので、ここはabab。aのほうが正しい者、主を恐れる者、bのほうが収穫する、繁栄するということが並行しています。

120からのところと、125からのところとそれぞれ並行はしているのですが、並行している形が少し違っていますので、よく見て確かめてください。